

講演録

KOUENROKU

高齢者宅から緊急通報あれば建物を自動表示

地理空間情報活用推進基本法が一昨年に成立し、地方公共団体の対応が様変わりしてきました。

基本法の第2条では、基盤地図情報が定義されています。これは電子地図上に地理空間情報の位置を定めるための基準です。基盤地図情報は、基準点や海岸線、境界線などの13項目。これは白地図ですが、環境とか都市計画の情報を載せて初めて使い物になります。

これを一般公開して流通を促進させるのが基本法です。役所に地図データがあるのに、民間企業が別に測量したり、地図を作ったりという無駄を省くのも法律の根底

にあります。

基本法16条では、技術上の基準も国土交通省令で定めています。例えば、市川市が航空測量して地図を作ろうとして、千葉県にもっと精度が高いデータがあるなら、県道部分はそちらのデータを使う

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので



大場 亨さん

市川市市民経済部商工振興課副主幹

(11月4日、産官学セミナー「地理空間情報が拓く未来Ⅱ—自治体GISで」)

にありません。

基本法16条では、技術上の基準も国土交通省令で定めています。

例えば、市川市が航空測量して地図を作ろうとして、千葉県にもっと精度が高いデータがあるなら、

県道部分はそちらのデータを使う

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

そのため誤差を配分し、調整する平均計算をするのですが、市境の辺りで精度が最も悪くなるので

点から1級基準点と2級基準点などを設置し、そこから距離を測量するのですが、細くなるほど実際の距離とずれてしまう。

以上が基本法の接合に関する内容ですが、もう一つは、XMLで符号化して標準化した空間データを提供しなさいという基準もできました。従来はA、B、C、DのGISソフトがあると、全部の間でデータ交換をしなければならなかった。ところがXMLの交換フォーマットがあると、すべてのソフトで交換標準ができます。

利点は何かという点、地図情報の発信者とは別に、担当者が提供したいデータをサーバーに入れると、ブラウザ上で自動的に重ね合わせて見ることが出来る。担当者としては自分が管理するデータにだけ責任を持つは良いのです。

地形図データは国土地理院が更新して配信するので、私も市川市の基準点データで同じことをやっておおぼ・とおる 1996

2年生生まれ。90年市川市役所入り。2000年東大大学院工学研究科で博士号(工学)取得。早大社会科学部非常勤講師。地理情報システム学会理事。独立行政法人評価委員会統計センター1分科会専門委員。

てみました。市川市のホームページに組み込みましたが、ジャバスクリプトの基本さえ知っていれば、勉強も含めて3日でできます。

今まで統合型GISというところ、一つのGISソフトに統一するイメージがありました。これからは異なるソフトウエアの間でXMLの空間データを交換する時代になったのです。

せっかくなので、市川市の事例を紹介いたします。現在は12課で16のソフトが稼働しています。一番最初は都市計画決定の内容照会システムを作りました。市には建築会社や不動産会社など1日当たり40-50人が用途地域を調べに来ますから。このほか、消防救急指令管制システムは、GPSで消防車や救急車の現在地が分かり、高齢者宅から緊急通報があれば建物の位置が自動的に表示されます。福祉まちづくり紹介マップやWeb GISによる意見交換システム、ひたたくり発生マップなどもあります。

Web GISで情報を提供したら、来庁者の費用便益がどうなるかを算出しました。建設業者や不動産業者などの移動費用は年間で3700万円と推計。費用の多くは、建築物の価格や融資の手数料、測量の請負金額などに転嫁されると思われるので、その金額が減ると予想されます。